

今月の ひとこと

新しい年を迎えてみなさま、いかがお過ごしでしょうか。昨年はまさに新型コロナに明け、新型コロナに終わった年でした。命を失った方はもちろんのこと、感染した方、ビジネスや学習、生活などに大きなダメージを受けた方々にお見舞いを申し上げます。今年はこの苦境から立ち上がる時です。予防、治療などの面での進歩はどんどん進んでいるようです。しかし、我々が理解しておくべきことはプレコロナの生活には戻らないということです。

昨年は我々にとってとても大きな気づきを与えてくれた年でした。新型コロナは自分を守ることが周りの人を守ることだと心の底から気づかせてくれました。「自己中」ではなく「思いやり」が大切なのです。また、この問題は一国だけで解決できる問題でもありません。国際的な協調が必要です。一国内でも国と地方が力を合わせることも不可欠です。他人のせいにはばかりしていても問題は解決しません。制約があるので、そこに工夫が生まれています。オンライン会議や講演、テレワークなどの「苦肉の策」が「結構、いいところもあるね」と認識が変わりつつあります。

例えば講演会。もちろん、対面で交流できるのはベストです。でも、オンラインで行うことで日本全国からの参加が可能になりました。質問もチャットで気楽にできます。テクノロジーの進化ですべてが対面である必要はないという気づきが生まれています。使い分ければいいのです。

会社生活も一か所にみんなが集まって仕事をする必要はない。もちろんそのような機会も必要でしょう。でも、多くの人が外で営業をしたり、事務で机に向かっていのであれば毎日、オフィスに集まる必要もない。

そして、オンラインでのコミュニケーションにみんなが慣れてきているのも事実です。我々の意識が拡大しているのを感じます。これまでのスタイルに新しい選択肢が加わってきているのです。新しい年はとても大きな可能性が広がりがつつある年だと思えます。

みなさん、従来の発想から抜け出て、「そんなことできつくないよ」にチャレンジしましょう。みんなにとっていいこと、未来にとっていいこと、そして、合理的なことは必ず実現しますから。今年が「心のフロンティア」をさらに広げることのできる年になりますように願っています。

+++++
FIWAからのお知らせ

+++++
YouTube上のFIWAチャンネル(Kaz Okamoto's Salon)に新しい動画をアップしました。昨年末までの15か月のFIWAの活動と今後の展望について述べています。19分とちょっと長く恐縮ですが私共の想いを聞いていただければ幸いです。

[「FIWA設立来の進捗状況と今後の展望」](#)というタイトルの動画です。

<http://bit.ly/3aDyvpk>

+++++
FACEBOOK上で3700人以上のクラブ・インベストライフの仲間が参加し、活発な議論をしています。投資未経験者の方の質問や疑問も大歓迎です。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください。(FACEBOOKに継続的に投稿を行っている方に限定させていただきます。)

新春メッセージ

岡本 和久



新春を迎えFIWA®の正・准会員、アドバイザー・ボード・メンバー、理事、監事のみなさまからメッセージをいただきました。多くの方々のご支援をいただきとても心強いです。

クラブ・インベストライフとは？

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することも一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告をご遠慮ください

I-Oウェルス・アドバイザーズ のメール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、クラブインベストライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

Facebookへはこちらをクリック

Twitter上のグループ
クラブインベストライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

[@c_investlifeさんをフォロー](#)

バックナンバー | 一覧

- 2020年12月05日発行 Vol.216
- 2020年11月15日発行 Vol.215

FIWAマンスリー・セミナー講演より 安心して資産を活用できる 超高齢社会を目指して

講演：野尻 哲史氏 レポーター： 赤堀 薫里



お金と向き合うためには、長く働くことと、生活コストを下げるために地方都市移住を推進しています。資産形成と資産活用がどのように分けられるの？といったら、15歳以上61歳以下の人は資産形成をやって、65歳以上の方は資産活用をやっていく。この二つが上手にバランスをとるということが、これからのお金との向き合い方の中で大事なポイントになってくると思っています。

- [2020年10月04日発行 Vol.214](#)
- [2020年09月15日発行 Vol.213](#)
- [2020年08月04日発行 Vol.212](#)
- [2020年07月15日発行 Vol.211](#)
- [2020年06月15日発行 Vol.210](#)



FIWAマンスリー・セミナー講演より 人生を通じての資産運用 資産形成と活用の簡単な方法

講演：岡本 和久 レポーター： 赤堀 薫里



今日は人生の中でいろいろな局面での資産運用についてお話しします。人生を通じての資産運用で世代に共通の目的は、お金の面では、どのように経済的束縛を最小化していくか。心という意味では、幸福感をいかに最大化していくか。この二つに集約されてくるかと思います。経済的束縛の最小化と幸福感の最大化、これが資産運用だけではなく、人生そのものの目的だと思っています。

FIWA代表理事リレー投稿 「朝活の奇跡」

FIWA副理事長 原田 武嗣



みなさんは、「THE MIRACLE MORNING 人生を変えるモーニングメソッド」(“The Miracle Morning: The 6 Habits That Will Transform Your Life Before 8AM”)という本をご存じでしょうか？この本は、私が昨年読んだ本の中で最も感銘を受けた本です。何故ですって？そのことについて、これからお話しします。(中略)この本について、詳しく紹介することはできませんが、基本的に著者は“SAVERS”と呼ぶメソッド教えています。これは、6つのメソッドの英語の頭文字です。

知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸



★「真実の口」のシーンはアドリブ ★ポスト・イットの発明は「偶発力」の典型例 ★バステューは残虐非道な監獄ではなかった ★ハワイ諸島の旧名はサンドイッチ諸島 ★「魔法使いサリー」、当初は「魔法使いサニー」だった ★マリリン・モンローを司法解剖したのは日本人

インベストライフ・アーカイブより 中国古典に学ぶ 投資と経営者の視点 (2007.09)

ゲスト：中国文学者 守屋 洋氏 編集委員：岡本 和久、澤上 篤人、洪澤 健

中国古典の第一人者である守屋 洋氏をお招きして、『論語』や『孫子』などの中国古典から 経営や投資に学ぶべきものは何であるのか。教育とは、国家



とは、一般市民が歩いていく方向性はどうあるべきなのかをお話いただいた。

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび

基本ポートフォリオのパフォーマンス 12月は4資産成長型が1.67%、2資産成長型が2.00%のパフォーマンスでした。世界各地のパフォーマンスは <https://www.ibbotson.co.jp/market/> でご覧いただけます。

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび

今回は純資産上位ファンド（毎月および隔月決算型を除く）の運用状況の運用状況をリストアップしていただきました。前月末時点でトップはグローバル・プロスペクティブ・ファンド（日興AM）、2位がグローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジなし）（AM-One）、3位がnetWIN GS インターネット戦略Bコース（為替ヘッジなし）（ゴールドマン・S）でした。

I-OWAたより

岡本和久のI-OWA日記

★ピギーちゃんの販売を一時中止いたします ★大鳥神社、目黒不動尊、五百羅漢寺をお参り ★YouTube FIWAチャンネル Kaz Okamoto's Salonに動画「FIWA設立来の進捗状況と今後の展望」をアップ ★初日の出と富士山 ★明けましておめでとうございます ★幸先語 ★年末はホール・チキンのロースト ★マチネの終わりに ★晴れた冬の日は朝焼けがきれい ★「致知」という月刊誌をご存じでしょうか ★第183回FIWAマンスリー・セミナーが開催されました ★誕生日メッセージをありがとうございました

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

セミナー案内

サムライ勉強会の形態変更のご案内

今年から勉強会のスタイルを変更いたします。一つのテーマについて有識者の方々をお招きしてのトークセッション形としてまいります。ご参加いただいた皆さまにも議論に加わっていただければと思います。講師の方にご登壇いただくスクール形式の勉強会は、引き続きFIWAマンスリー・セミナー（Zoom開催）で実施します。

【第47回サムライ勉強会】

トークセッション『年金とは何か。そろそろみんな本質的な理解をしよう』

2021年2月5日（金） 19時～21時（Zoom開催 18:45入室）

講師：

朝日新聞社文化くらし報道部記者 太田 啓之（おおたひろゆき）氏

朝日新聞社編集委員 浜田 陽太郎（はまだようたろう）氏

コーディネーター FIWA副理事長 CFP® 岩城 みずほ

お申し込み：<https://somerise.net/2021/01/04/1224/>

【第186回マンスリーセミナー】

開催日時 2021年2月21日（日） 12：30～16：00

会場 Zoomによる開催

講演講師

- 岡本 和久：「個別銘柄と投信選択の基本」
- 川元 由喜子氏：「資産形成としての個別株投資～長期投資をもっと身近に」
- フリー・ディスカッション

備考 お申込み：2021年1月19日以降受付：<https://happymoney.stores.jp/>

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

Page Top



FIWA 関係者のみなさまからの 新春メッセージです

新春を迎え FIWA®の正・准会員、アドバイザー・ボード・メンバー、理事、監事のみなさまからメッセージをいただきました。

新年あけましておめでとうございます。今、私は「母の介護」と「育児サポート」の真っ最中。制約は多いのですが、心のひだを耕して感度を高めるチャンスでもあります。こんな感じで今年も「みんなのお金のアドバイザー」として恥ずかしくないよう頑張ります。歩む仲間は、絶対、多い方が楽しい。いかがですか、一緒にしませんか！？

石津史子 アドバイザー・ボード・メンバー、正会員



新年明けましておめでとうございます。2019年9月に産声を上げた FIWA®、今年はより多くの皆様に私たちのことを知っていただけるように活動してまいります。また個人的には、ご相談者一人一人に、より丁寧に向き合うこと。質の高いコラムが書けるようによく考え、勉強していくことを心に決めております。今年も精一杯がんばります！みなさま、どうぞ今年もよろしく願い申し上げます。

岩城みずほ 代表理事、正会員

2020年はコロナ禍の中で「人とのつながり」の大切さを実感した年でした。2021年は FIWA®のつながりを拡げて「しあわせ持ち」さんを増やしましょう。

上山光男 正会員

あけましておめでとうございます。

大きな動きのあった昨年より、新たな幕開けとなる一年の始まりを FIWA®の一員として迎えられること、心よりうれしく思います。共に歩んでいけると思えるからこそ、これからの一年がますます楽しみです。本年もどうぞよろしく願いいたします。

内田英子 准会員





FIWA 通信「インベストラ이프」

明けましておめでとうございます。本年がおだやかな良い一年でありますようお祈りいたしております。2020 年は非常にダイナミックな相場環境でした。そして、市場に居続けることの大切さを改めて実感した一年でもありました。市場が混乱した時に FIWA® の皆様の伴走は個人投資家に心強いものとなるはずです。今後の FIWA® に期待しております。

江黒清史 アドバイザリー・ボード・メンバー



価値あるアドバイスをできるアドバイザーが世の中から尊敬され、独立した職業として認知されることを目指して FIWA® 正・准会員のみなさん、生活者を支援していきます。FIWA® の活動は多くの人のリタイア後の経済基盤が非常に脆弱であるという日本の抱える大きな問題に対する社会貢献です。「みんなのため、みらいのために良いこと」、「合理的なこと」は必ず実現します。絶対にあきらめずに 1 ミリずつでも前進することが大切です。

岡本和久 代表理事

FIWA® では准会員としての職業行為基準を遵守した活動を行っています。特に相談者の利益を最優先するためにライフプランに基づくアドバイスに力を入れています。FIWA® の准会員としても一緒に学びませんか？

岸野浩二 准会員

縁あり、FIWA® の設立から今に至るまで関与させていただく中で、NPO 法人としての体制が次第に強固になっていることをうれしく感じています。FIWA® アドバイザーの皆様が安心して活動できるよう、私自身も学び、監事の職責を果たしていきます。

北村勝信 監事

FIWA® が不要になる日を目指してコツコツと。がんばれ、FIWA！個々の生活者が、真に必要なものとしておカネの正しいアドバイスを得られ、この無形のサービスに気持ちよくお代を払いたくなる、こんな、金融生活文化の土壌をみんなで作っていただけたいですね！

桑瀬登起子 アドバイザリー・ボード・メンバー

明けましておめでとうございます。昨年は FIWA® の一員に加えていただき、得難い学びの機会とご縁に恵まれました。今年はまだ多くの方に FIWA® の存在を知っていただき、また共に成長する仲間も増やせたらと思います。

小谷晴美 正会員

「笑門来福」豊かな未来は、自分自身の思い次第です。FIWA® の一員として知識を深め、お客様の選択肢を増やし心豊かに過ごせるようサポートしていきます。東北大震災から 10 年、福島からエ



FIWA 通信「インベストラ이프」

ールを！

志甫真由美 正会員

新年あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナの影響で、今までの生活様式を大きく変化することが求められる一年でした。感染症の脅威と向き合いながら、新しい時代でも皆様が心豊かに生活していただけるよう本年も務めてまいります。

杉山夏子 正会員

「幸せの循環のパイプ役に」

お金はよく血液にたとえられますが、その中核である心臓が FIWA® の役割ではないでしょうか。FIWA® の皆様のご活動が広がることで、幸せの循環が広がる、そのような 1 年となることを願っています。

住山志津枝 正会員

インベストラ이프読者の皆様、明けましておめでとうございます。認定アドバイザーが少しずつ増えていることを嬉しく思っています。アドバイザーという職業をメジャーにするためにも協会の活動には期待をしています。

高橋 忠寛 正会員

FIWA® の存在が “お金の相談、” にお金を払う文化をつくる一歩になると思っています。今年も相談者の皆様にお金を払う価値があったと思ってもらえる仕事ができるように精進します！

竹内かおり(キャサリン) 正会員

FIWA® 関係の皆様、新年明けましておめでとうございます。2021 年が新型コロナ感染収束の年として歴史に刻まれるとともに、長期・分散の合理的な資産形成を始める方がますます増え、FIWA® にとって実り大きな年になることを祈念致します。

竹中正治 アドバイザリー・ボード・メンバー

あけまして、おめでとうございます。FIWA® が順調に立ち上がっていることは、嬉しい限りです。素晴らしい組織なので、今年は広く世の中に知られて、多くの人々の役に立てることをお祈りしています。

塚崎公義 アドバイザリー・ボード・メンバー

情報が溢れ、正しい情報を掴みにくい世の中です。FIWA®、FIWA® の会員が羅針盤の役割を果たせるように、情報発信の質量、情報発信力を向上させ、明るい未来への一歩となる一年にしたいと思





FIWA 通信「インベストラ이프」

っています。やすべえは、京都より日々鍛錬して参ります！

中野靖之 正会員

新年あけましておめでとうございます。昨年度 FIWA®の一員であることがきっかけになり、ご相談くださったお客様がいらっしゃいました。今後、そのような方が大幅に増えること信じています。皆様にとって幸多き一年となりますようお祈りいたします。

西岡奈美(ナンシー) 正会員

コロナ禍でこれまで積み上がったあらゆる歪みのマグマが一気に噴出した感があります。その中で、「生活者が経済的束縛から解放され自由を確立する」ための FIWA®の支援活動がますます求められます。地道な活動で FIWA®仲間の輪が大きく広がることを切に願っております。

原田武嗣 代表理事

あけましておめでとうございます。

昨年から続く大きな変化により、あらためて将来を考える方が増えたのではないのでしょうか。そのような方々に経済的なことだけでなく心も豊かになっていただけるよう、正しく誠実なアドバイスを今年も行ってまいります。

正井靖之 正会員

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

不確実性が高まる中、DX時代の到来と言われていますが、こうした時代だからこそ「心」がますます大事になってきますね。年初に思ったこと：「一日一生、一日一愛」、一日を一生のように生き、一日に一回でよいから自分以外の誰かの幸せを心から祈ろう。

三和裕美子 アドバイザリー・ボード・メンバー





FIWA マンスリー・セミナー講演より 安心して資産を活用できる超高齢社会を目指して

講演：野尻 哲史氏
レポーター：赤堀 薫里

お金と向き合うためには、長く働くことと、生活コストを下げるために地方都市移住を推進しています。資産形成と資産活用がどのように分けられるの？といったら、15 歳以上 61 歳以下の人は資産形成をやって、65 歳以上の方は資産活用をやっていく。この二つを、上手にバランスをとることが、これからのお金との向き合い方の中で大事なポイントになってくると思っています。



資産形成と資産活用は例えるならば山登りです。資産形成は資産を積み上げていく。山を作り、登っていくパターンだとすると、資産活用は出来上がった資産を使って生活をしていく。つまり、山を下るパターンと想定しています。ここで大事なことは、本質的には登山をする時、山の降り方のルートを知らないで山に登る人は絶対いないということです。

資産形成ということだけを叫んでいても、作った資産をどうするのか分からず資産形成の議論をするのは危険があります。どちらかという、「資産形成をたくさん作れば勝ち！」のようなところがあります。しかし、必ずしもそうではないと思っています。高い山に登ろうとすればリスクは高くなります。これは一つ、山下りのルートをちゃんとわかったうえで山登りをするという、たてつけをみておくべきではないか。

もう一つは、山は上るよりも下りの方が危険は多くけがをする。ここは伴走者が必要です。ここがアドバイザーの一番大きな存在意義だと思います。山登りは、ロボアドでもいけますが山下りの方はロボアドではなかなか苦しい。そういう意味で、本来あるべきところは資産活用のポイントではないのか。資産形成と資産活用は、それぞれ独立したものではなく、二つの面で考えてもらいたい。資産形成は資産活用を最初に絵図面を描いたうえで考えるべきものだというのが一点。また、山下りの時は、危険度合が高くなるのでアドバイザーが必要です。特に最後の 5 年 10 年は自分で





FIWA 通信「インベストラ이프」

は何もできないかもしれない。これをどうやってサポートしてもらうのか。これがアドバイザーの使命であり、教示であると思っています。

下山の時に高齢者の側に立ってアドバイスができることは、非常に大事なことだと思います。山登りのところは資産形成と呼び、その手法は積立投資です。資産活用の方はそこに取り崩しというのが今度は手法として入ってくる。

私は、どこかの段階で資産運用は諦めて撤退をする時がくるだろうと思います。資産活用の終点の頃から遡ってものを考えていきましょう。人生の最晩年は運用からも撤退している時代でしょう。逆に言えば、現役時代に積立運用や資産運用をやっていた方は、定年になったからといって、突然資産運用をやめるということも推奨できません。出口戦略として部分撤退を考えていく。これが使いながら運用する時代と呼んでいる私のコンセプトです。

アドバイザーが、資産活用にこそ必要だと思う最大の要素は、資産形成も資産活用も、資産運用という運用のパーツはあまり変わらないと思っていますが、その前後の手間は資産形成よりも資産活用の方が大きくなると思っています。定率の議論や、引き出しなどの要素が加わり、資産形成の時とはだいぶ違ってくることでしょう。かつ、その手間も足したら、全体の作業量は、金融商品やサービスがカバーしてくれるところと、自分でやれるところがありますが、加齢に伴って自分でやれるところがどんどん減ってくるので、これを誰かに頼らざるを得ません。

金融商品やサービスとしてサポートしてくれるところが必要になってくる。だからこそ、顧客の側に立つアドバイザーが必要になってくるだろうと考えています。他にも手数料の明確化や、フィーをちゃんと取る持続可能な事業。利益相反の低減。これらも参加者にとっては、非常に大きな業者側のサービス、あるべき姿になっているのではないかと思います。

講演では、生涯におけるお金との向き合い方として、資産形成から資産活用を全部みることの重要性や、資産の持続力向上と目標を引き下げる効果を具体的な数値を入れた例を用いて分かりやすく解説いただきました。最後に英国のファイナンシャルアドバイザーの変遷から現状に至るまでをお話いただきました。



FIWA マンスリー・セミナー座談会より フリー・ディスカッション

岡本 | 基本的に考えていることはそんなに違いはないと思います。大きくいうと、退職後の資金の運用というか引き出し方の側面と、もう一つ重要なポイントとして考えていくのはアドバイザーをどのように考えていくか、その2つだと思います。引き出し方でいうと、野尻さんの場合は低率法で引き出していき、ある一定の時期でそれを定額に切り替えていくことですよ。

野尻 | ただ、よく「低率は4%でないとだめですか？」とか、「4%でいいのですか？」という議論がされますが、これはスタンダードで考えているだけの話で、引き出し方はもっと多様でいいと思います。ほとんどの方が、引き出すのは毎年、毎月一定金額。それは使いすぎない、引き出した後の使うことだけに目線が行っている。残っている資産に対するインパクトを全く考えていない。

アメリカにDCの制度の引き出しルールがあります。75歳を超えると最低引き出し率が決まっています。日本ではイデコやDCは素晴らしい制度だと言っていますが、素晴らしい制度かどうかは退職をしてみないと分からない。今は退職所得控除の対象になっているのでいいですけど、もし退職所得控除がなくなったら引き出す時に所得課税ですよ。全額課税対象になるわけです。

本質的に人間働いたらどこかで税金を納めるという世界共通ルールがあります。所得税を払っていない期間があれば、必ず所得税を払うという発想でいくと、米国はDCの制度を入れた頃に、引き出しのルールも作りました。これをRMD(Required Minimum Distribution)といいます。

岡本さんの講演で、余命で前期末の残高を割ってというのがありますが、あの余命のところを国税庁が毎年発表しています。何歳の人は何年という。その逆数をかけるという発想です。70.5才の時は率に直すと3.6%ぐらいです。同じようにそういうパターンを作っていくべきだと思います。そこまでオープンに議論をしても、ついて来られないくらいの段差があると思います。差し当たり、率で考えるんだという発想を提示しようというのが一番大きいですね。

岡本 | 4%というのが1人歩きしていた時期があった。ベンゲンという人の論文が最初だったと聞いています。彼は退職時点の総資産の4%を毎年引き出していくという議論だと思います。それが過去のマーケットの上昇も含めていくと、大体それで一生涯なんとかもつ。野尻さんが言っているのは、前期末資産の4%ということですよ。それでいくと、当然資産は、だんだん引き出していき金額が減っていきます。ある程度のところでストップして定額ですよということですよ。



FIWA 通信「インベストラ이프」

私が紹介したバートン・ウェアリングの論文は非常に良いポイントをついていると思います。彼は Annually Recalculated Virtual Annuity (毎年再計算されるバーチャルなアニュイティ) を主張しています。要するに保険会社の個人年金を買うことなく、リスク・ポートフォリオを保有しつつ、アニュイティの考え方に基づく金額を引き出していく。保険会社に預けるとコストも掛かるし、保険会社そのものがおかしくなってしまう可能性もある。自らエクセルで簡単な計算をして期初における資産の時価総額を用いて、受け取れる終身のアニュイティの額を今年引き出す。翌年はマーケットの変動で、資産の時価が変わるので、その時で再計算する、という議論になっています。

それは、毎年マーケットが上昇していくという前提になっています。でも、それを個人の人がやるのはかなり大変です。アドバイザーがちゃんと付いてやればいいのかもしれませんが、みんながそれをできるわけではないと思います。

そこで私が考えたのは、資産の増加率を 0 と仮定して、毎年の引き出し額は前期末資産時価残高を余命年数で割る。余命年数は、平均寿命プラス自分なりにあと 10 年とか 5 年、あるいは 100 才、110 才くらいみておけばまず大丈夫だろうとかね。自分で設定すればいいのです。

資産形成の応用編でお話したバリュー平均法は、目標額を達成するためにマーケットの変動によって定時の投資額を変えていくという考え方です。私が言っているシンプルな引き出し額はちょうど逆バージョンです。マーケットの変動によって引き出し額を変動して、最終目的地まで資産をもたそうという考え方です。

リスク資産から引き出していくと、ある時点でリスク資産はなくなります。あとは預金です。そうすると、資産形成の時代にどれくらいリスク資産を持つかということに関係してきます。基本的に積立てるのであれば、全部株式でいいと思います。積立で持ち、退職金がある人は、もらった退職金を全額債券型のファンドにして株と債券の比率をほぼ半々にしておく。それから後は、リスク資産をだんだん取り崩して行く。それぐらいのやり方が現実的に普通の人を考えていくことでしょう。それでも難しいかなと思います。

原田 | 野尻さんのお話の中で、英国金融制度改革の評価の中にペンション・ワイズ(DC の加入者が資産を引き出す時に無料で政府が投資のガイダンスをする)の話が出ていました。これは非常に興味深いと思います。こういった考え方を日本でも取り入れていこうという動き、兆しはこれから出てきますか？

野尻 | 少なくとも確定拠出年金の関係でいくと、2 つの鍵になる要素があります。一つは「全ての企業が企業年金を導入すること」という法律を英国は導入しました。2018 年まで日本の小さな企業でさえ、全部企業年金を入れなくてはいけなくなりました。ルールとしては、従業員は一度全員加入をして嫌だったら脱退をするというオプトアウトの権利を持ちます。2012 年スタートで、2018 年までの間に 800 万、1,000 万人の新しい企業年金加入者が増えた、といわれています。これはすごくいいことです。日本にも必要ですけど、できるのかといえば、



FIWA 通信「インベストライフ」

非常に厄介。しかし、私は良い制度があると思っています。それがイデコプラスです。イデコプラスは、『全員が導入しなさい』というルールにはなっていませんが、金融庁に行くと『次はなんの制度にするの？』という制度議論になりますが、そうではなくて、今あるもので何ができるのかということをもっと考えるべきではないかと思っています。ペンション・ワイズも同じです。多くの大企業に退職直前ぐらいに黄昏教育というものがあります。そういうのを、もったきちんと活用するということができます。なかなか 100%カバーする、同じモノを作ることは難しい。でも、すでにあるモノをちょっとだけ上手く変えていくことで、6 掛け、7 掛けになるかもしれませんが、同じような効用を得ることができるのではないのでしょうか。

IFA の本を書いた鼎談で、三人の声が唯一合わさったのが「日本における IFA の一番大きなターゲットは、中小企業だよ」という声でした。目先のビジネスも大事ですが、もう一つは、中小企業の CFO(最高財務責任者)として IFA が働くことで、その会社にイデコプラスをもっと浸透させる。そうすることで、オーナーの個人財産とオーナーの持っている会社の財産もアプローチの対象ですが、従業員の投資教育や、従業員の資産形成にもタッチすることに高い評価をすべきだと思います。イデコプラスを加味して、IFA が中小企業 CFO になっていけるようなビジネスモデルがもっと広がってもいいのかなと思っています。

参加者 | 野尻さんは生活をダウンサイズされるというお話で、地方都市への移住を進められていました。地方都市移住でも一応県庁所在地、というのは、野尻さんのおすすめとしては、地方都市としても県庁所在地ぐらいのところが良いということでしょうか。

野尻 | 普通の人には、地方移住というと、ログハウスを建てたり、一件家を買ったりということになります。もちろんそれも問題はありませんが、あまり強くはお勧めできません。原則は、『生活レベルを下げないで、生活費レベルを下げる』と考えています。例えば、東京で 2LDK に住んでいた場合、それと同等の家やマンションを熊本でと考えた時に、それだけでも家賃は半分になる。同じモノを売っているとしたら、東京で売却して同じモノを熊本で買えばその値段の半分に当たる部分がホームエクイティーとして自分のものになります。このように考えるとこれも老後資金として使えます。いくらでもアイデアが出てきます。ただ、どこでもいいのかというと、普通の人には農業をやりたい人はあまりいないでしょう。ログハウスに住むというわけにもいきません。多くの人は医療が心配だと言います。親が健在だと動けないよねという事情もあるので、少しずつ変わってくるのかもしれませんが。

岡本 | 米国だと家族が多いときは大きめの家に住んで、子どもが徐々に独立していくほどに小さな家買い換えていく。そして資金を少しずつ捻出していきながらそれを老後資金に回していく。そんなやり方もあるみたいですね。ダウンサイジングといっても悪いことばかりでもない。そこに伴うメリットや楽しみがあります。野尻さんもここにいらっしゃるみなさんもそうか



FIWA 通信「インベストラ이프」

もしもませんが、みなさん課題を抱えていて、野尻さんに話して頂いたことが、これからみなさんの活動の役に立てたらいいなと思います。今日はありがとうございました。



FIWA マンスリー・セミナー講演より 人生を通じての資産運用 資産形成と活用の簡単な方法

講演： 岡本 和久
レポーター： 赤堀 薫里

今日は、人生の中でのいろいろな局面での資産運用についてお話します。人生を通じての資産運用で世代に共通の目的は、お金の面では、どのように経済的束縛を最小化していくか。心という意味では、幸福感をいかに最大化していくか。この二つに集約されてくるかと思えます。経済的束縛の最小化と幸福感の最大化、これが資産運用だけではなく、人生そのものの目的だと思えます。



「神よ、変えることのできない事柄については冷静に受け入れる恵みを、変えるべき事柄については変える勇気を、そしてそれら二つを見分ける知恵をわれらに与えたまえ。」米国の神学者、ライオンホルド・ニーバー(1892～1971)の言葉です。変えることができるということは、自分でコントロールできます。変えられないことは、コントロールできません。資産運用において自分でコントロールできることは、資産配分、リスクとコスト。コントロールできないことはリターンです。逆にいえば、コントロールできることをきちんとやった結果として、それまでの行為の成績として出てくるのがリターンということです。

投機と投資は大きく違います。投機は偶然性に賭けることです。結果にほとんど法則性がなく、結果をコントロールすることができない。投資は、資金を経済活動に投げること。経済活動は人間がしていることなので、若干、結果に法則性があるし、完璧ではないけれど、ある程度、結果をコントロールする方法もあります。

投資の中でも、短期投資は株価を対象にして売買で儲けようとするものです。一方、長期投資は企業を対象にして、それを保有して、企業が成長していくに従い自分の資産も増えていくというものです。さらに、資産運用とは、個別銘柄の投資ではなくて、資産全体をいかに管理していくか。だから、英語ではアセット・マネジメントというのです。資産全体を管理していく。

資産運用は資産形成と資産活用に分かれます。資産形成は就労中の人リタイア後のために経済基盤を準備しようというもの。資産活用は収入よりも支出の方が恒常的に大きくなった人、多く





FIWA 通信「インベストラيف」

はリタイア後ということになります。資産を運用しながら取り崩していく方法です。どちらも対象はあくまでもポートフォリオ。個別銘柄が上がった、下がったということは、二義的な意味しかない。全体をいかに上手く管理していくのか、これが資産運用です。

短期投資の不都合な真実を知るべきです。株価は、実体を反映する単なる影であるということが一つ。もう一つは、流通市場はマイナスサムの世界であるということです。株価は影であり、かつ流通市場は付加価値を生む場所ではない。誰かが儲ければ、その分を誰かが売ってしまっているということです。一番大事なことは、将来の自分は今の自分が支えるという一言に尽きると思います。

資産活用の場合、ある程度資産を形成して、定年退職を迎えて、いかに今持っている資産を運用しながら滞空飛行時間を伸ばしていくというのが課題となります。つまり、どう取り崩していくのかということになります。その際、強い力となるのが本当に信頼できるプロのアドバイザーという伴走者です。長期投資の長旅では3つの悪魔が出てきます。最初に登場するのが無知の悪魔。次が恐怖の悪魔。3番目が欲望の悪魔。これに打ち勝ちながらいきます。

本当に良いお金のアドバイスは、あくまでもライフプランに基づいて、その人の資産、負債、収入、支出、全てを視野に入れ、それを人生通じてどう管理していくかというアドバイスを続けていくのが本来の仕事です。つまり、きちんとしたライフプランを相談者と作り、それに沿ったお金の対策を助言するという事です。何が値上がりしそうとか、みんなが何を買っているかなどとは違うのです。不適切なアドバイスは、非常に大きな損失を生むものです。例えば、ライフプランと整合性のないアセットアロケーションを組んでしまう。例えば、非課税口座で買えば安く買える商品を課税口座で買ってしまふ。リスク許容度を越えた投資対象の選択。長期投資に不適當な銘柄選択。リターンに報われないリスクを取る。コストの高い投資対象の選択。不必要な回転売買と銘柄の入れ替え。相場の乱高下に心が乱されて投資家が、投資方針と異なる行動をとってしまう。これも非常に多いのですが、一時的な暴落局面に遭遇すると、せつかく始めたイデコや積立 NISA を止めてしまふ。そのような不適切なアドバイスがもたらす運用上のマイナス効果はたくさんありますし、また、その結果、大きな運用上のマイナス効果が発生しています。

アドバイザーとは本来それだけで一つの職業です。主要国ではアドバイザーというものが、独立した職業として確立されるように動き出しています。日本で欠けていると思うことは、一つは投資方針書の作成をしていない。2番目はプロのアドバイザーがいない。プロのアドバイザーがいて、相談者と膝をつき合わせて、彼らの事情をよく聞いて、彼らのライフプランに合ったような投資方針書をきちんと作り、それに基づいて投資をしてもらうというのが本来のあるべき姿なのだと思います。講演では、資産形成の基礎編、応用編、資産活用編、バリュースト平均法についての解説。最後に、英国や米国の現状の説明とともに、本当のプロの信頼できるアドバイザーという伴走者の必要性を説かれました。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



「真実の口」のシーンはアドリブ

ウィリアム・ワイラー監督の不朽の名作「ローマの休日」、この映画の印象的なシーンの一つが真実の口の場面。偽りの心があるものが口に手を入れると手首を切り落とされるという伝説がある石の彫刻だ。

グレゴリーはアドリブで、真実の口に手を入れてなかなか抜けず、抜いた時に手がなくなっているという演技をした。これを真に受けたヘップバーンの驚きようは尋常ではなく、大声をあげて大慌てしてしまった。



グレゴリーがこうしたアドリブをしたのは、当時は新人で緊張気味だったヘップバーンの緊張を和らげるためだったのだ。それまでぎこちない演技のあったヘップバーンに、リラックスして演じることをさりげなく教えたという。





ポスト・イットの発明は「偶発力」の典型例

ポスト・イット(付箋紙)は、スリーエムの研究員、スペンサー・シルバーによって開発された。彼は強力な接着剤を開発中に失敗し、非常に弱い接着剤を作り出してしまった。この弱い接着剤は当初、その用途がみつからなかったが、同僚が本の葉に応用できないかと思いついた。このエピソードは、偶然から大発明を生む「セレンディピティ(偶発力)」の典型例として知られる。

1977年に試作品が完成し、各企業に試供品を配って以来、口コミで広がっていった。1980年発売以降、ポスト・イット(Post it)という商品名で世界中に広まり、現在では100か国以上で販売されている。当初は黄色だったが、売れ行きが伸びるに伴い、蛍光色を用いたものやより大きいものなど、さまざまなバリエーションが作られている。

バステューユは残虐非道な監獄ではなかった

一般に、バステューユは残虐非道な監獄であると認識されているが、実情は違う。部屋は5m四方であり、天井までは8mある。窓は7mの高さにあり、鉄格子があったものの、外の光は十分に入り込む。また囚人は、自分の家具を持ち込むこともでき、専属のコックや使用人を雇うことすら可能だった。食事もけっこう豪華で、嫌いなものがあれば別のものを注文することができた。牢獄内ではどのような服装も自由、好きな生地、デザインで服をオーダーできた。

また図書館、遊戯室などもあり、囚人が病気になった場合は国王の侍医が診察した。このため、他の監獄で病人が出たとき、病院ではなくバステューユに搬送することもあった。こうした環境が整っているため、出所期限がきても出所しなかったり、何ら罪を犯したわけでもない者が債権者から逃れるために入所したこともあるという。

1774年のルイ16世即位からバステューユ襲撃の1789年まで、収容された人数は合計288人だが、このうち12人が自ら望んで入所している。

ハワイ諸島の旧名はサンドイッチ諸島

料理のサンドイッチの語源が、イングランド貴族のサンドイッチ伯爵であることはよく知られているが、実はハワイ諸島の旧名サンドイッチ諸島も彼の名に由来している。4代目サンドイッチ伯爵は海軍卿当時、ジェームス・クックの探検航海を支援しており、1778年1月クックがハワイ諸島を発見したときに伯爵の名にちなんで「サンドイッチ諸島」と名付けられたのである。



そして 1795 年カメハメハ大王が島を制圧、ハワイ王国を誕生させ王位に就いた。

なお、クックはニュージーランド、ニューギニアがオーストラリア大陸とは独立の島であることを発見したのをはじめとして、ニューカレドニア、フィジー、クック諸島など多くの島を発見した。そして、1779 年自分が発見して命名したサンドイッチ諸島で先住民との争いによって命を落とした。

「魔法使いサリー」、当初は「魔法使いサニー」だった

子どもたちから大人気を博した横山光輝原作の「魔法使いサリー」は当初「魔法使いサニー」の題名で、昭和41年から少女漫画雑誌「りぼん」に掲載された。ところが、5回連載したところで、「サニー」の商標権を持っていたソニーから「サニー」の使用が認められず、「魔法使いサリー」と名前の変更を余儀なくされたのである。（一説によると、別の名前をどうしようかと打ち合わせたときに、横山光輝氏のアイデアで、「ニ」を横に倒して「リ」に変えたとか）



なお、日産自動車の「サニー」はソニーから使用許可を得て昭和41年に発売され、トヨタの「カローラ」と双壁をなす大衆車としてベストセラーカーになった。

マリリン・モンローを司法解剖したのは日本人

1950 年代に大ヒットした映画「ナイアガラ」や「七年目の浮気」で知られるマリリン・モンローは 1962 年 8 月、ロサンゼルス郊外の自宅寝室で死亡しているところを発見された（36 歳）。睡眠薬の大量服用による急性中毒で、「自殺の模様」と大々的に報道され、世界中に衝撃が駆け巡った。

この時、モンローを司法解剖した医師は、野口恒富という日本人である。また、野口はシャロン・テート、ウィリアム・ホールデン、ナタリー・ウッド、ケネディ大統領など多くの著名人の検視解剖を行っている。さらに、1976 年から 1983 年まで野口をモデルに「Dr. 刑事クインシー」が放送され、法医学の世界が多くの人に知られることになった。



FIWA 代表理事リレー投稿 「朝活の奇跡」



寄稿: FIWA 協会
副理事長 原田 武嗣

みなさんは、「THE MIRACLE MORNING 人生を変えるモーニングメソッド」(“The Miracle Morning: The 6 Habits That Will Transform Your Life Before 8AM”)という本をご存じでしょうか？
この本は、私が昨年読んだ本の中で最も感銘を受けた本です。何故ですって？そのことについて、これからお話しします。

この本は自己啓発本です。私は、この種の自己啓発本はほとんど読んだことがありません。コロナ禍で、毎日爽快な気分でスタートできないかと思っていたので、単純に”THE MIRACLE MORNING”というセンセーショナルで刺激的なタイトルに惹かれたわけです。結論からいうと、この本を読んでみて、私が感じた読後感、これは、私の人生を確実に変えるかもしれないという予感です。

みなさんの中には、この本に書かれているモーニングメソッドのいくつかをすでに実行されている方がいるかもしれません。私もほんの少しだけ実行していました。しかし、こんな明確なメソッドとして示して、それを確実に行動に起こしている著者による本であるだけに説得力があります。

この本の訳者あとがきに、著者についての紹介があります。

「著者ハル・エルロッドは、20歳の時に交通事故で11ヶ所を骨折、脳に修復できない損傷を受け、二度と歩けない可能性が高いという診断を受けました。しかし、懸命なりハビリと強い意志の力で勤務先に復帰し、営業成績で社内記録を更新。独立してからは、さまざまな困難を克服した経験を生かして、人の役に立つことに人生を捧げています。トップクラスの講演者として企業や非営利団体に招かれる傍ら、若者に影響を与えることに情熱を注いでおり、高校・大学での講演





FIWA 通信「インベストラ이프」

会を精力的に行い、アメリカ国内のラジオやテレビに多数出演。私生活では通常の2倍の距離を走るウルトラマンマラソンを完走し、二児の父でもあります。不運を力に変えて、仕事も家庭も……と、自分の望むとおりの人生を手に入れてパワフルに楽しんでいる著者の生き方には、ロバート・キヨサキ氏(『金持ち父さん、貧乏父さん』の著者)など、多くの人が敬意を示しています。」

正直言うと、このような著者自身の生々しい体験が書かれていなければ、著者の確信に満ちた文章にドン引きしそうになりました。しかし、このメソッドを試してみるうちに、毎日爽快な気分ですタートできることを実感しています。

この本について、詳しく紹介することはできませんが、基本的に著者は”SAVERS”と呼ぶメソッドを教えています。これは、6つのメソッドの英語の頭文字です。

メソッド1は、**Silence(S)**、沈黙です。著者は「目的ある沈黙」として、5分間の瞑想をすすめています。そして、「毎日の瞑想は、自分の問題からの「一時休暇」で、「無言で座るだけで心が満たされる」「平和に1日のスタートを切るのに最適の方法だ。」と述べています。

メソッド2は、**Affirmation(A)**、アファメーションです。「私は世界一だ！」モハメッド・アリはこの自己肯定的のアファメーションを繰り返し使い、そして実現させた。アファメーションは、人生の成功者になるために最も効果的なツールのひとつだ」と著者は言います。「ひとりごと(セルフトーク)が自分自身、健康、幸福、富、人間関係その他、人生のあらゆる側面における成功レベルに劇的な影響力を持つ。アファメーションが自分の役に立つか足を引っ張るかは、どんな内容をつぶやくかにかかっている。」「本人ができると思えばできる。本人ができないと思えばできない。どちらの思い込みも正しいのだ」、そして、「アファメーションを使うことで、これまでの自分を縛る思い込みの代わりに前向きな思い込みを、潜在意識に刷り込むことができたのだ。」と自らの経験を語っています。「毎日欠かさず唱えるだけで進化し続ける!」、アファメーションの効果を実証するために重要なのは、感情をこめて読むことだ」と。

メソッド3は、**Visualization(V)**、イメージングです。スポーツ選手がパフォーマンス向上のためによく使う手法で、メンタル・リハーサルとも呼ばれる、前向きな結果を引き出すための訓練です。理想の1日を過ごしている自分を思い浮かべ、「なりたい姿&やるべきことをイメージする」、プロセスを楽しむイメージを持つのがポイントで、「画像が鮮やかであるほど強い効果がある」と著者は言っています。

メソッド4は、**Exercise(E)**、エクササイズです。「毎朝たとえ数分でもエクササイズすると、エネルギーが上がり、健康が増進し、自信が出てきて、感情が安定し、思考力と集中力が増す。」「歩いて



FIWA 通信「インベストライフ」

も、走っても、あるいはヨガでも OK)、ほんの少しの時間でもよいから、「疲れていない朝こそエクササイズに最適」と著者は言います。

メソッド 5 は、**Reading(R)**、読書です。「本を読むことは人生のあらゆる分野を様変わりさせる早道であり、理想の人生を手に入れるのに必要な知識と着想と戦略を得るにあたって、もっとも速効性のある方法のひとつだ。」「望みを手に入れる最速の道は、すでにそれを手に入れた成功者の真似をすることだ。」と、著者は言います。私は、自己啓発系の本を、半ば軽んじていましたが、もったいないことをしてきたと思います。

メソッド 6 は、**Scribing(S)**、「書く」ことです。著者のお気に入りの「ライティング」は、日記をつけることで、5~10 分使って書いているとのこと。「思考を頭から取り出して文字にすることで、ひらめきが起こる。」、そして、それだけでなく、「日記を読み返すことで、成長を実感できる。」と言っています。モーニングメソッドを実践した 1 年目の大みそかに、「自分の下した決定や選んだ行動、そしてやり遂げたことなどの進歩の歩みを振り返ることで、12 カ月でここまで達成できたことに感謝の気持ちがこみ上げ、自信がわいてきた。何より大切なのは、自分が学んだ教訓(その多くはすでに忘却の彼方だった)を思い出すことができたことだ。」と著者は言います。「誰でも一冊の本を書ける人生を生きている」とは、なんて素敵な言葉でしょう！

そして、著者は、親切にも、「6 分間で結果を出す 短縮版モーニングメソッド」まで説明してくれています。「最初の一步」こそ、一番難しいが、マラソントレーニングなどしたことがない著者がウルトラマラソンを走りきるプロセスに例えて、「モーニングメソッドを 30 日間実践することは、人生のすべての面で今後一生にわたって成功するための基礎づくりである。」と述べています。特別付録として、「モーニングメソッド スタートキット」、「人生を変える E メール」までついているのは、感激ものです。

私は、この本を読んで、モーニングメソッドを始めたばかりですが、その効果を実感しはじめています。今年の大みそかに朝の日記を読み返すのが楽しみです。皆さんも是非この本を読んでモーニングメソッドを実践してみてください。

中国古典に学ぶ 投資と経営者の視点

中国古典の第一人者である守屋 洋氏をお招きして、『論語』や『孫子』などの中国古典から経営や投資に学ぶべきものは何であるのか。教育とは、国家とは、一般市民が歩んでいく方向性はどうあるべきなのかをお話いただいた。

ゲスト：中国文学者 守屋 洋氏

編集委員：岡本 和久、澤上 篤人、洪澤 健



【守屋 洋氏プロフィール】

▶1932年宮城県生まれ。東京都立大学大学院人文学部中国文学科修士課程修了。中国古典に精通する第一人者として、著述・講演に活躍。現代社会のなかで中国古典の知恵がどう生かされているのかを語り、難解になりがちな中国古典を平易な語り口でわかりやすく説く。日本文芸協会会員、日本ペンクラブ会員。主な著書に『貞観政要のリーダー学』『中国古典の名言録』など多数。

バブル以降に見直されてきた中国古典

澤上 私はずっと守屋さんのお話を伺いたいと思っていて、今日はものすごく楽しみにしてきました。早速ですが、これまでは国と企業・産業界が日本の経済を動かしてきたけれど、今、この状態に変化が起きつつあるんじゃないかと思うんです。本来であれば生活者・大衆・消費者がもっと主体的に経済に参画してもいいはずなのに、そういう図式がこれまでの日本に存在しなかった。

明治維新以来、とにかく国が先頭に立って富国強兵や殖産興業、戦後は傾斜生産方式による産業育成と企業の国際競争力の強化など、まさに発展途上経済の図式で

成功してきた。

そもそも経済は、われわれ一般大衆の生活、飲んだり食べたりしたりが集まって時々刻々とできあがっていくものですよね。そこに企業経営があり、投資があり、税収もあって国の経済が成り立つ。それなのにこれまでの日本では、国民の生活とか消費者からの視点というのが相当に欠落していた。

しかし、ここへきて一般大衆が自助意識を高め、何かしら行動を起こそうとしている。それに対する方向づけや、指針のようなものはあるのでしょうか。むやみに扇動されず、自分たちの生活や消費行動のうえに企業経営が成り立ち、国も経済も成り立っている、という自覚をもった消費者として行動する方向に進んでいけるので



しょうか。

守屋 平成になってから、世の中の様子がかなり変わってきたと思いますね。銀行業界などは、この20年、業界の再編成があったけれど、その先の姿が見えてきませんから不安ですね。

それに比べて製造業の人たちは、とにかくまじめで細かいものをコツコツと作っている。ごまかしがきかない職種ですからね。問題はお金を扱う商売ですよ。不祥事の続出で、まさに渋沢栄一の『論語と算盤』の世界に立ち帰るときです。お金を扱う仕事にたずさわっている人たちは、よほど自覚してもらわないといけない。「利を見ては義を思う」と論語にありますが、人の道、それだけは踏み外

さないようにしてほしいものです。
渋澤 渋沢栄一の残した言葉をみていくと、そのまま今の時代に使えるものが多いんです。というのは今の時代、事なかれ主義に陥って一人ひとりが守りに入っていて社会に対する責任感もない。

『論語と算盤』の多くは大正時代に書かれたと思われるんですが、大正時代のイメージといえば大正デモクラシー。日本がとても豊かになって、初めて一般市民が社会を形成できる基盤ができた明るい時代です。ところが渋沢栄一は、明治の老人のぼやきともとれるのですが「こんなのダメだ。このままじゃ将来国民が悔やむような事態に陥ってしまう」ということを盛んに言っているんです。そ

して昭和初期に、実際そのとおりになった。

平成の今、大正とは比較にならないほど国民は豊かで、一人ひとりが社会を形成する基盤はもっとしっかりしている。一方で、国民投票法案のようなきわめて重要な法案が、国会をほとんど素通りしてしまうようなことが起きています。

大正時代に渋沢栄一が語ったこと、一人ひとりが社会全体のことを考えなければいけないという警鐘が聞こえてきそうです。

守屋 バブル経済のころから、日本では中国古典が読まれなくなりました。ちょうど漢文になじみのある旧制中学世代が、第一線から退き始めたころに当たります。

バブルがはじけて自信を失った

その後の経営者は、もっぱらアメリカ的な手法に^より所を求めるようになった。平成に入って世の中が変わってきたと感じるのは、そのことが背景にあるんじゃないですか。アメリカにはもちろん学ぶべきものは多いが、同時に、学んではいけないことも多くある。生煮えのままでアメリカ式を取り入れると、消化不良を起こす。

成果主義も市場主義も、このところ消化不良の実態がはっきりと見えてきています。その反省からきているのか、去年くらいから中国古典を見直そうという流れが出てきたようです。

渋澤 ここ2～3年、論語の勉強会は若い経営者の間でも盛んになってきています。

守屋 『論語と算盤』の伝統は途切れたわけではなく、地下水脈のように、この社会のなかに生き続けているのだと思います。

澤上 お客さんと話をするときにも感じるんですが、個人投資家層が効率一辺倒の市場主義とは違うものを求めてきていますね。

戦前と戦後の教育の違いで何が変わったか？

守屋 日本は世界に通用するような飛び切り優れたリーダーのいない国ですが、一方でどうにもならないような層も少ない。



岡本 和久

そこそこのレベルの能力を持った層が圧倒的に多いんです。これまでの経済発展も、強力なリーダーが引っ張ってきたわけではないですからね。

よく中国との比較で考えるのですが、中国は飛び切り優秀な人物がいる一方で、どうにもならない層が8～9割いるという国なんです。その中国の古典というと、めほしいものが書かれたのは2千年以上前。当時、字が読める人たちは1パーセントもいたかどうかで、それを書く人も一般庶民などは眼中にない。そういう伝統を中国は持っています。中国では論語が広く一般の人々に読まれるということは、どの時代にもありませんでした。これは教育の問題なんですね。

日本は教育熱心な国で、江戸期の寺子屋で論語を教えていましたし、江戸末期ごろには世界で最も教育熱心な国でした。明治期に入れば全国津々浦々に小学校を建てたほどです。

以前、金沢に講演に行ったとき

に「禁酒村」の話聞いたんですが、小学校を建てるために大人たちが“禁酒”してお金を貯めて学校を建てたというんです。また、千葉の田舎のほうでも村の財政の7割を小学校に投入しているところもあるなど、ほんとに日本は教育熱心な国です。戦後は新制大学が広く門戸を開いて多くの大卒者を輩出し、経済の第一線で働いてきた。その層が圧倒的に多いのが日本経済の強みとなったわけです。

渋澤 中国古典には「道」というものがありますが、それはごく限られた層を対象として書かれたんですね。では現代において、大衆、あるいは一般の人々を対象にした「道」はあり得るのか。市民として社会全体のことを考えて、一人ひとりが取るべき「当たり前の行動」、市民社会を形成するための「道」というものを導き出せるのでしょうか。

守屋 可能性、素質としてはありますね。ただ戦後の教育がそれを難しくしているのかもしれない。具体的にいえば、「修身」の教育です。

戦後の教育においては毛嫌いされるような風潮が続いていますが、そもそも修身とは周りや上から押し付けられるものではなくて、自分で自分を磨く自覚的努力なんです。それが身につけば誰でもそれなりのレベルに達すること

ができるんですよ。しかし、その「修身」を戦後の教育ではあまりにも軽く見られてしまった。

澤上 まさにそういったことで何か欠けていると多くの人が感じていて、その何かを求めている人も多い。

守屋 私が若い世代に願うのは、日本人としての自覚と誇りをもってもらなければ困るということ。これがなければ外へ出て行っても戦えない。そのためにも近・現代の日本の歴史をもっと勉強してほしいですね。

日本人の長所をひとつあげるならば、困難な仕事でも皆で力を合わせてやり遂げようとする「敢闘精神」。ある中国人の作家が書いていたが、「日本人は一人ひとり豚だが、3人集まると龍に変わる。逆に中国人は3人集まると豚になってしまう」。これは、日本人は結束力があって力を発揮し、中国人はよくも悪くも個人主義だということを表しているんですね。

それにしても日本の企業は社員研修に熱心ですね。何とか戦力に育てようと、手取り足取り教える。これが日本企業の強みですが、やりすぎて型にはめてしまう傾向がある。その点、中国は放ったらかし。しかし、そういうなかで自分を磨いて這い上がってくる人たちはすごいですよ。個性もあってスケールも大きいですが、数が非常に少



澤上 篤人

ない。

岡本 日本ではプロ意識が希薄なところがあって、プロフェッショナルである前に組織の人間であるという意識が強い。だから組織の中で、組織がうまくいっているときは龍になるし、組織がうまく機能しなかったり、足かせになってくると全くうまくいかなくなってしまう。

守屋 非常にまずいと思うのは、日本人の長所であるまとまりの良さが最近失われてきていることです。企業も苦勞していますね、強い個人も育たないし。今を過渡期と見るのかどうか……。理想を言えば一人ひとりが力を持ち、個性を持ったうえで結束することなんですけどね。

「個」の確立が 戦略・戦術の礎となる

澤上 『インベストライフ』が創刊時から訴えている基本理念が「個の確立」。社会全体や、人間の優しさ・美しさ、品格など、そう

いうものを意識した“個”を確立しよう、と。個をそれぞれ確立した個人が、独立自尊、それでいてばらばらではない集まりになっている。それが『インベストライフ』のそもそもの設計概念なんです。

岡本 皆それぞれ考え方は違っていながら共通の理念があって、そこに向かって皆が進んでいるという意味では非常に結束している。ただ一人ひとりそれぞれの思いで動いていますけどね。

澤上 自由に、自在に。個が確立していなければ、自由には動けないから。

守屋 『論語』でいう「和して同ぜず」ですね。「和」はする、仲良くするが、付和雷同はしない。

日本は聖徳太子の昔から「和だ。和だ」といつてきた国ですが、ややもすると「同」になりがちです。

均一、金太郎飴などともいいますが、みな似たり寄ったりなんです。

岡本 それはビジョンの問題だと思うんですね。「和」するのはいいが、「和」してどこに行くのかという目標が、戦後であれば先進国に追いつくというようにはっきりと見えていた時代はよかった。しかしそれがなくなってきた時に、ただ「和」しているだけで、どうしていいかわからない。とりあえずアメリカについていってみよう、という感じになっている。

澤上 「同」じてしまうのは、個が確立していないということ。「和」していても自分の判断基準がしっかりしていれば、同調するときはするが、進む方向がずれてくればそれぞれ自分の判断に基づいて機敏に方向が変えられる。

「個」の確立がなければ、成功体験に振り回されるだけです。集団でパワーを発揮するには「個」が確立していなければいけない。そのために必要なのは頭でっかちな知識ではなく、判断能力・バランス感覚といったことが非常に重要で、そこに古典を学ぶ意義があると思うね。

守屋 日本は伝統的に自己主張が弱い。また、下手にやると嫌われる。それは諸外国と比べてかなり違う点でしょう。逆に中国はすごく自己主張が強い。特に自分が不利益を被るとなると、猛然とまくし立ててくる。

日本人は真面目でまとまりがあるが、欠けている点は戦略・戦術です。真面目すぎて使いこなせないとでもいうか。相手をだましたり陥れたりするような悪い駆け引きは使わないほうがいいのですが、手の内ぐらいいは心得ておかないと相手から仕掛けられた場合にくらっとやられる。

一方で事業を拡大する駆け引き、仕事を成功させる駆け引きというのは、リーダーとして身に付



渋澤 健

けていないといけないのに、日本人はどちらも苦手でなかなか使いこなせない。

岡本 何か大きな目標・ビジョンがあって、それに向けての戦略や戦術があるはずなんですけど、そういった行動になっていないんですね。いろんな事態が起こってくると、その場その場で考えて、一番みんなに迷惑のかからない解決案でやっていくというのが日本人の性質になってしまっている。

渋澤 そこがパラドックスじゃないんでしょうか。まとまりが良いのか悪いのか、一人ひとりが共通のグランド・ビジョンを信じていない。また、誰かが立てたビジョンを反対もしないで受け入れているから、まとまりもしない。

岡本 お役所のグランド・ビジョンが極めて曖昧になってしまってますね。自分たちが何のために何をしているのかということがわからないでいる。だから、龍が集まって豚になってしまうんですよ。

守屋 日本の敗色濃厚となりつつあった昭和18年秋、日本で開催さ

れた大東亜会議に参加したインドのチャンドラ・ボースが会議の後で何を言ったかということ、「日本にはわれわれアジア人が学ぶべき良いところが多くある。しかしたった一つないものがある。日本にはgood statesman^{*}がない。これが日本の命取りになるかもしれない」。

今でもその事情は変わらないですね。世界を相手に駆け引きできるようなステーツマンがない。

国家が形骸化し、差別化される グローバルとローカル

澤上 これからは国家の形骸化^{けいがい}が進むのではないかと、常日頃思います。グローバル化で残るのは形だけの国家。企業はどんどんグローバル化する一方、人々の生活は結局そんなに地元を離れない。20世紀は何もかもがグローバル化の方向ができて、21世紀はグローバル対応すべきものと、ローカルに対応すべきものとを、使い分ける知力・能力が問われるようになると思いますね。

国家が主役の時代には、パワーポリティクスもステーツマンも絶対に必要だったかもしれない。不幸にして日本に欠けていたものだが、国家が形骸化し個人個人がグローバルとローカルを使い分けるようになると、日本も国家戦略と

^{*}statesman (ステーツマン)=政治家、代議士

まったくびきから解き放たれるんじゃないでしょうか。

守屋 経済は国境を越えつつあるし、この傾向はこれからも続くでしょう。あとはそれぞれの国・民族とどう折り合いをつけていくかということです。

澤上 国ではなく、部族や宗教など、より身近な単位は強いまま残るでしょうね。国内でも地方の人々と話をしていると、地方の誇りを思い起こそうという考えに共感が集まってきています。

手前味噌に聞こえるかもしれませんが、地方にいながら長期投資をするということは、世界の成長を地元に取り込むことだと思えます。昔ならば家族が都会に出稼ぎに行って、都会の富を取り込んでいた。しかしこれからは地方に住んで、世界の成長を取り込みながら地方の文化や伝統を守り、誇りを取り戻す。そんな図式を考えているんですよ。

守屋 それは日本人だからできる発想かもしれないですね。今の日本は、民族や国といった意識がもっとも薄い国でしょう。

日本にいるからこそ、そういった発想でものを見ようとするんじゃないですか。

澤上 以前住んでいたスイスでは、4つに分かれた民族それぞれの自意識が強く、民族間のいざこざが絶えなかった。ところが、ひ

とたび何かあると「国民」として結束する。

岡本 違いはいくらでも容認していて、時にコンフリクトもあるけれど、何か共有しているものがあるということじゃないでしょうか。

アメリカはあれだけ多様な民族がいてそれぞれ勝手気ままにやっているが、デモクラシーという部分については皆が共有しているという意識がある。これこそわれわれの宝である、というものがあるわけです。日本人にとっては一体何なのでしょう？

この日本という島、国土が宝なのか。かつてはそれがお国のためだった時代もあったんですが、何かそういう理念的な、国民全体に共通する価値観のようなものがあればいいと思いますね。

アメリカ的な資本主義に対して、日本的、あるいは東洋的な資本の論理に基づいた、少し違った資本主義が日本のなかで支配的なものとして出てくればよい。

日本には膨大な金融資産があるわけだから、それが日本人的な資本の論理に基づいて世界中に発展していくなら素晴らしいことです。日本の個人投資家が喜んで買えるような商品、単なる金儲けの商品というより、何らかの価値観を表した少し品格のある金融商品を作って売る、というような新しい展開が出てくれば面白いと思

ますけどね。

経営の志は「世のため、人のため」 「一視同仁」の心をもつ

守屋 アメリカ流の良い点と、中国古典を含む日本の伝統の良い面と、そのうえに立った新しい経営手法を作り出す、経営者としてそれが今の課題じゃないかと思えますね。

明治の先人たちはまさにそんな努力をしてきた。伝統の良い面を保ちながら、一生懸命新しいものを学んでいる。もともと日本人はそういったことが得意なはずですよ。

渋澤 最近世間を騒がせているスティール・パートナーズのようなアクティビスト・ファンドというのは、やや敵対的に経営者との対話を進めていくスタイルなんですね。日本で活動するファンドのなかにはフレンドリー・アクティビズムとって、経営コンサルティングと、ファンドとしての投資を組み合わせたような形をとっているところもあります。

海外から見ると「フレンドリー」と「アクティビズム」はつながらない概念で、奇妙なやり方と映るんですが、これはまったく日本的な発想ですね。外来した資本の原理を日本に受け入れられやすいように、経営者はファンドの顧客であるという発想で形を少し変えて

活動しています。

守屋 孔子が『論語』で最も重視したのは「仁」で、言い換えれば「思いやり」。同じ儒教圏でも「仁」のあり方は違います。日本流の「仁」は、見ず知らずの他人にまで思いやりの心をおよぼしているという「一視同仁」です。

ところが中国や朝鮮半島の「仁」は、射程距離が短く身内と友人にしかおよばない。圧倒的多数の他人は、知ったことではないというんですね。

驚いたことに日本の一視同仁は、今でも日本の社会に残っている。経営コンサルタントなどがよく口にする「顧客満足度」がそうです。もともとは欧米で言われ出したことなのでしょうが、なんで今さらそういうのか……。 「仁」の心をおよぼしていけば、自ずとそうなるはずなんですけどね。

岡本 収益そのものが、「仁」の心に対する報酬だということ。しかし、ただお金だけ集めればいいという資本家も多い。収益というのは結果であるにもかかわらず、それが目的と化してしまっているところに問題がある。

澤上 わが社の社是のひとつに「ギブ、ギブ、ギブ、とことんギブ」があります。つまり、自分たちは努力して力をつけ、報酬があるかどうかはともかく、その成果をど

食えればいいじゃないか、やっけていて幸せならいいじゃないか、と。計算ずくで欲張ってみても結局見透かされてしまうし、それにすがっている自分の品のなさ、目線の低さに自分で嫌になってしまうでしょう。やりたいからやっている、という意識が大切ですね。

守屋 先日、経営理念について話をする機会があったのですが、中国古典からいうと、要するに志、何のために経営するのかということ。一言でいえば「世の為、人の為」です。それさえ押さえおけば、大きく道を誤ることもないし、やりがいもある。

経営者などから、中国古典の何を読めばいいのかと聞かれることがあります。人それぞれ置かれた状況によって違いますが、一番基本的な入り方は『論語』と『孫子』。これはまさに『論語と算盤』ということですよ。『論語』は信頼される社会人、説得力のあるリーダーを目指すためには何が必要かを説く。それだけでは厳しい現実を生きていけない。そこで戦略・戦術が必要になる。これらを合わせて1本、『論語』と『孫子』というわけです。

強いてもう一冊付け加えると『韓非子』。性善説・性悪説というのがありますが、儒教や論語は性善説に基づいています。人間を信頼することです。これに対して性

悪説の代表が『韓非子』です。

日本の社会は伝統的に性善説です。今でも過大な期待を性善説にかけようとするのが日本流です。性善説の欠点は、どうしても脇が甘くなること。そこを突かれるとひとたまりもありません。それなりの用心・警戒心を持たなければいけないのですが、それを教えてくれるのが『韓非子』なんです。人間なんて信用できないという前提に立ったうえで、どうすればそういう人間をうまく使いこなすことができるのかという性悪説のうえに立った帝王学ということ。アメリカや中国、ロシアも多分、性悪説の前提に立って運営されてきたと思いますね。

日本人の真面目さは、古典との付き合い方にも出ていますね。途中、どうでもいいようなこともたくさん書いてあるんですが、飛ばして読まずに全部丹念に読んでいこうとするから途中で投げ出しくなりま。そこでもっと簡潔にエッセンスだけ書いてあるものはないかと聞かれると、『菜根譚』と『呻吟語』と答えています。これらは明の時代に書かれたもので、当時の高級官僚が自分の体験の上に立って多くの古典のさわりの部分だけを短い文章で書き記してくれたという書物です。経営者でしたら、この2冊ぐらひは読んでほしいですね。

<モデルポートフォリオ:2020年12月末の運用状況>

単位：%

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1か月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 252万円
4資産型	積極型	2.53	8.38	6.62	10.29	15.13	13.51	25.12	66.85	115.03
	成長型	1.67	6.53	4.81	7.99	10.34	8.79	17.72	45.78	85.27
	安定型	0.80	4.27	2.81	5.55	6.10	4.10	10.16	26.69	56.50
2資産型	積極型	2.99	10.18	8.05	11.01	16.43	14.68	30.10	73.56	139.53
	成長型	2.00	8.51	5.78	8.81	11.86	9.84	21.83	51.87	103.43
	安定型	1.02	6.33	3.34	6.46	7.96	5.03	13.42	32.05	69.09

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2019年12月末に1万円投資資金を積み立て始め、2020年11月末の投資資金までとする(2020年12月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。
出所:イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)まで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

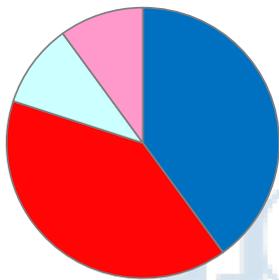
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

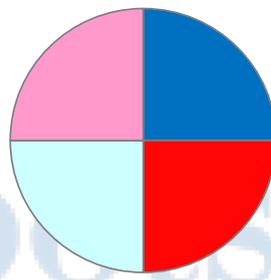
4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

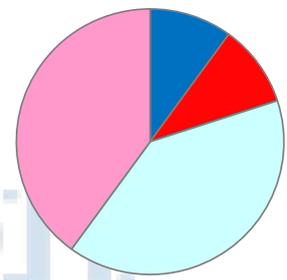
積極型



成長型



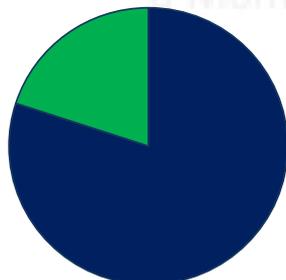
安定型



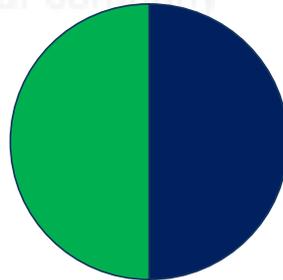
2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

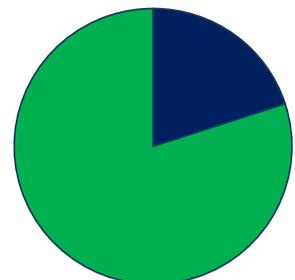
積極型



成長型



安定型



<純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く): 2020年12月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。
※ファンド名をクリックすると「投信まとなび」でそのファンドを見ることができます。

「長期投資仲間」通信「インベストライフ」のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

今回順位	前回(20年9月末)順位	運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の月末資産額				2020年12月末		イボットソン分類
				1ヵ月	1年	5年(年率)	10年(年率)		10年(年率)	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~252万円	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~252万円	純資産(億円)	
1	4	日興AM	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	12.43	125.85	-	-	-	81.30	-	-	-	21.76	-	-	-	8,191.8	24,227	外国株式・世界型
2	1	AM-One	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	1.48	44.03	-	-	-	30.91	-	-	-	15.71	-	-	-	6,637.9	27,669	外国株式・世界型
3	3	ゴールドマン・S	netWIN GS インターネット戦略Bコース(為替ヘッジなし)	2.01	33.68	18.93	18.53	23.55	21.85	83.27	206.50	373.95	14.62	109.96	367.80	1194.34	6,449.2	20,696	外国株式・北米型
4	2	三井住友トラスト	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	5.45	39.20	-	-	-	32.89	-	-	-	15.95	-	-	-	6,418.6	16,828	外国株式・世界型
5	6	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド	2.37	20.32	8.83	10.75	19.65	23.91	38.51	87.60	115.47	14.87	83.11	225.12	543.00	4,543.2	29,855	国内株式・大型成長型
6	5	レオス	ひふみプラス	1.92	20.73	12.14	-	-	21.11	40.82	-	-	14.53	84.49	-	-	4,528.8	49,441	国内株式・キャッシュバランス型
7	-	Tロウ・プライス	ティー・ロウ・プライス 米国成長株株式ファンド	2.22	27.61	-	-	-	21.69	-	-	-	14.60	-	-	-	4,230.3	12,728	外国株式・北米型
8	9	AM-One	投資のソムリエ	0.54	4.36	3.23	-	-	2.47	9.80	-	-	12.30	65.88	-	-	3,856.5	12,407	アロケーション・リスクコントロール型
9	8	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3.87	28.52	15.32	-	-	28.92	62.16	-	-	15.47	97.30	-	-	3,775.2	12,494	外国株式・世界型
10	10	さわかみ投信	さわかみファンド	2.46	11.06	5.98	8.79	18.78	19.36	24.20	63.54	103.44	14.32	74.52	196.25	512.67	3,307.1	28,950	国内株式・大型ブレンド型
11	14	三井住友DS	グローバルAIファンド	4.42	86.90	-	-	-	59.24	-	-	-	19.11	-	-	-	3,176.2	31,757	外国株式・世界型
12	12	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)	3.88	28.80	15.41	-	-	29.00	62.61	-	-	15.48	97.56	-	-	3,139.6	21,455	外国株式・世界型
13	7	日興AM	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	3.11	6.26	-	-	-	13.02	-	-	-	13.56	-	-	-	2,848.1	13,570	アロケーション・その他
14	11	東京海上AM	東京海上・円資産バランスファンド(年1回決算型)	1.09	-6.07	0.71	-	-	-0.45	-0.81	-	-	11.95	59.51	-	-	2,806.1	10,870	アロケーション・安定型
15	16	三菱UFJ国際	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)	12.24	53.83	-	-	-	35.71	-	-	-	16.28	-	-	-	2,799.7	23,142	外国株式・世界型
16	13	野村AM	野村インド株投資	7.88	0.27	5.60	6.11	27.67	17.91	15.47	55.07	-	14.15	69.28	186.08	-	2,791.7	25,544	外国株式・インド型
17	17	日興AM	グローバル・フィンテック株式ファンド	3.92	82.66	-	-	-	52.65	-	-	-	18.32	-	-	-	2,611.4	32,705	外国株式・世界型
18	18	大和AM	ロボット・テクノロジー関連株ファンド-ロボテック-	5.25	34.95	17.01	-	-	30.68	70.82	-	-	15.68	102.49	-	-	2,342.9	18,393	外国株式・世界型
19	19	セゾン投信	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	1.52	6.50	4.70	8.10	12.01	8.20	18.81	45.73	-	12.98	71.28	174.87	-	2,325.3	16,678	アロケーション・標準型
20	25	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	2.22	10.30	-	-	-	15.01	-	-	-	13.80	-	-	-	2,289.2	13,288	外国株式・北米型

対象は追加型株式投資信託のうち2020年12月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF、DC・SMAなど専用投資信託を除く)。積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとす。例えば1年の場合は2019年12月末に1万円で積み立てを開始し、2020年11月末投資分までの2020年12月末における運用成果とする(2020年12月の積み立て額は入れない)。出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)にてご連絡ください。